

平成27年度 福祉のまちづくり研究所企画運営委員会【事後評価】

No.	研究課題名	コメント
1	身体動作計測情報の遠隔地情報共有に関する研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導尿支援装置への応用は製品化も予定されており高く評価できる</li> <li>・他の身体動作の計測情報についても、研究の発展を期待する</li> <li>・成果物と研究課題に関して乖離が見受けられる</li> <li>・今後の研究の進め方には留意すること</li> <li>・進捗の遅い部分は外部の協力を求めるなど工夫すること</li> </ul>
2	ロボットリハビリテーションの評価手法の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学術性、実用性とも、世界レベルの研究内容であり高く評価できる</li> <li>・医療現場と研究所との接点として今後の進展が期待される</li> <li>・日常的な使用における簡単さとわかりやすさについて、さらに開発が必要である</li> <li>・今後は、評価手法の有効性等の検討も必要である</li> <li>・研究成果の臨床応用を進めるとともに、研究成果を世界に発信すること</li> </ul>
3	改良型筋電義手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指を反らすことが可能な新しい筋電義手の開発は高く評価できる</li> <li>・利用者の声がちんと研究に反映されている</li> <li>・開発で課題が出ては種々の改良を加えて目標を達成している</li> <li>・製品化の一手前まで来ており、今後の製品化、実用化に期待する</li> </ul>
4	知的障害者・発達障害者に配慮した公共空間整備に関する研究 ー発達障害者に配慮した音響環境を中心にー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音環境の整備は緊急時への対応など重要な課題である</li> <li>・アンケート調査のレベルにとどまっている</li> <li>・研究結果の有効性に関してさらに検証評価が必要である</li> <li>・本調査で見出された新たな成果や今後に関わる提案がない</li> <li>・原因や定量化等の掘り下げを行うこと</li> <li>・今回は音に限っているが、さらに多くの生活における課題に研究を発展させること</li> </ul>
5	福祉のまちづくり条例に基づく整備基準の評価を支援するモバイルシステムの研究開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバイザーの助言の内容の集計や分析等がどのように整理されているのか不明確</li> <li>・内容は行政と関連の深いもので、もっと連携が必要である</li> <li>・今回開発されたモバイルシステムの有効性に関してはさらなる検証評価が必要である</li> <li>・試用実験や試作で終わっており、実用化まで継続すること</li> </ul>
6	高齢者の郊外居住における居住の継続に関する研究 ー住宅団地における高齢者に必要な整備方策ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の高齢化の進展で極めて重要なテーマである</li> <li>・アンケート調査の方法や内容に総花的で抽象的な部分が多く成果が見えにくい</li> <li>・研究成果は定性的な表現であり、検証評価が必要である</li> <li>・統計解析やモデル解析を導入すること</li> <li>・行政、地域住民との連携が重要であり、そこまで踏み込んで研究を継続すること</li> </ul>
7	障害者に配慮した無人(駅員巡回)駅の整備指針に関する研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査に留まり、その有効性に関して検証評価が必要である</li> <li>・アンケート調査結果をもとに、どこか1ヶ所でも整備改善を実施することが重要である</li> <li>・「無人」であるが故の不便さなのか、機器等の不備や利用者の操作能力の問題なのか整理すること</li> <li>・不便さをどのように解消するかを示す研究の成果が期待される</li> </ul>
8	適用除外バス車両のバリアフリーにおける乗降デバイスの提案研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乗降デバイスの提案まで至らず、成果不十分である</li> <li>・車イス利用者の長距離移動が最終目的であるならば、移動支援ボランティアのNPOを支援する仕組みを作るなど別のアプローチもある</li> <li>・社会的に受け入れられる仕組みを提案すること</li> <li>・交通事業者だけでなく、このような車両を製作している事業者等との協働や評価の方法等についてさらに検討すること</li> </ul>
9	障害を有することによる個別ニーズに対応した福祉用具の開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要な内容であり、その成果も高く評価できる</li> <li>・研究所の本来業務であり、テーマの位置付けと運用方法について見直しが必要である</li> <li>・これまでの蓄積や成果を踏まえた実践的研究を期待する</li> <li>・個別ニーズから一般化された研究課題へと展開したような事例があればおもしろい</li> </ul>